

# 令和7年度 七飯町立七重小学校「学校評価アンケート」前期結果について（お知らせ）

平素より本校の教育活動に対し、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
 今年度の学校評価「保護者アンケート」の回答にもご協力いただき、ありがとうございました。この結果をふまえ、子どもたちの「共に生きる力の育成」のために、重点教育目標の「ともに学ぶ中で、互いのよさに気づき、違いを認め合える子どもの育成」に向け、教育活動の改善を進めていきます。

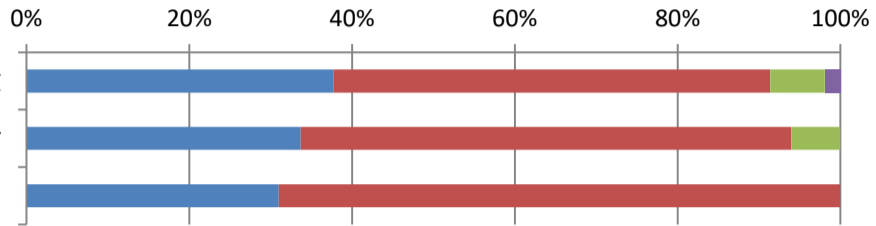
七飯町立七重小学校  
 校長 五十嵐 義幸

数字はすべて割合(%)

共生の立場に立つて考えられる子・互いのよさに気づき、認め合える子

## 人間関係形成力の育成

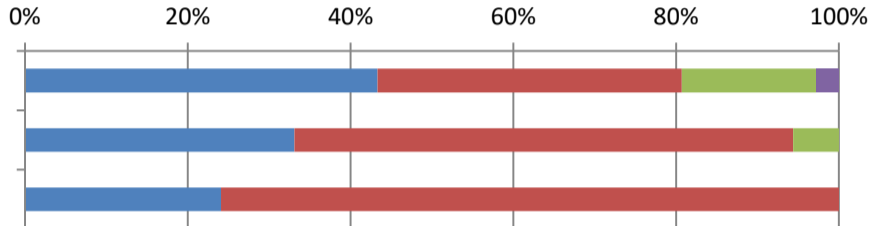
項目	児童	保護者	教職員	④思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①思わない				良好	要改善
				④	③	②	①		
1 人の話を聞き、相手の気持ちを理解することができている。	児童	37.7	53.7	6.7	1.9	91.4	8.6		
お子さんの話をよく聞き、認め励ましている。	保護者	33.6	60.1	6.0	0.0	93.7	6.0		
子どもとの対話に努め、子どものよさを認め、背中を押している。	教職員	31.0	69.0	0.0	0.0	100.0	0.0		



「人の話を聞き、相手の気持ちを理解する力」についてです。児童と保護者、教職共に「良好」の割合が多いです。取り組んできたことが少しずつ成果として表れてきています。ただし、昨年度の前期評価と同様、児童と保護者で「要改善」が見られます。今後とも、取組を進めていく必要があります。

## 人間関係形成力の育成

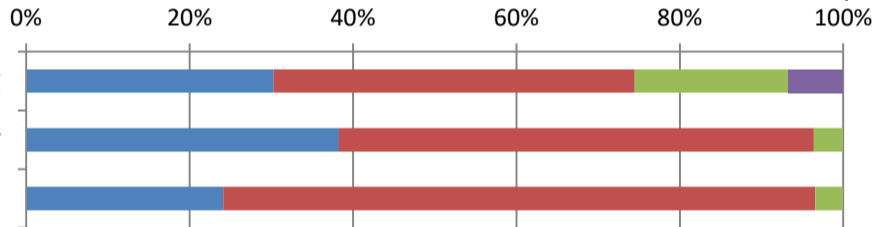
項目	児童	保護者	教職員	④思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①思わない				良好	要改善
				④	③	②	①		
2 自分の思いや考えを伝えることができている。	児童	43.3	37.4	16.5	2.8	80.7	19.3		
お子さんの思いや考えを聞き、受け止め、対話している。	保護者	33.1	61.3	5.6	0.0	94.4	5.6		
子どもの思いや考えを理解し、目標や行動につなげている。	教職員	24.1	75.9	0.0	0.0	100.0	0.0		



「自分の思いや考えを伝える力」についてです。昨年度の前期と比較すると同様の傾向ですが、「良好」の評価が保護者が7.4%から20ポイント上がっています。また教職員も16ポイント上がっています。家庭や学校生活の中で、自分の思いや考えを伝えることの大切さを伝えていくことがわかります。1番の「人の話を聞いたり、気持ちを理解したりすること」と合わせて、引き続き育成に努めていきます。

## 自己有用感の向上

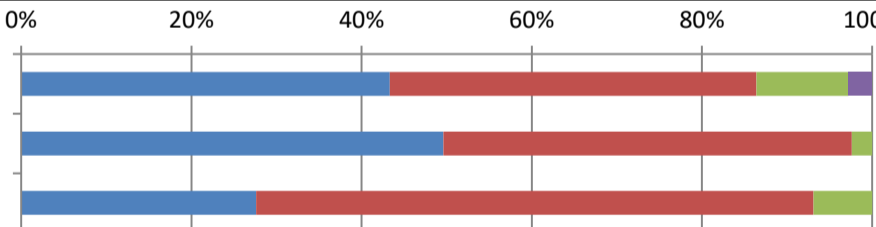
項目	児童	保護者	教職員	④思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①思わない				良好	要改善
				④	③	②	①		
3 先生や友達の役に立ち、認められている。	児童	30.3	44.2	18.8	6.7	74.5	25.5		
人の役に立つ行動を認め、家庭での役割や助け合いを伝えている。	保護者	38.3	58.1	3.6	0.0	96.4	3.6		
取組に気づいて認め、よりよい生活に向けて意欲をもたせている。	教職員	24.1	72.4	3.4	0.0	96.5	3.4		



「自己有用感の向上」についてです。児童の傾向は昨年度とほぼ同様でしたが、良好が3.6ポイント上がっています。自己有用感はやがて進むにつれて下がってくる傾向にあります。学校生活を過ごす中で、自分のことを客観視できるようになってきたからともいえます。今後も学習面や運動面などの評価されやすい部分だけではなく、その子なりのよさに目を向け、価値づけることを大切にしていこうと努めます。

## 規範意識の醸成

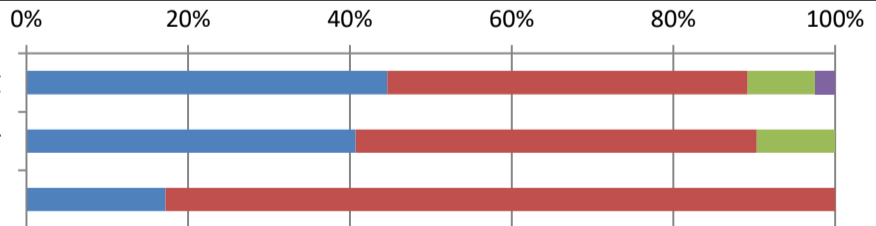
項目	児童	保護者	教職員	④思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①思わない				良好	要改善
				④	③	②	①		
4 学校や社会のルールを守り、安定した生活を送ることができている。	児童	43.3	43.1	10.8	2.8	86.4	13.6		
ルールを守って生活することの大切さを伝え、考え合っている。	保護者	49.6	48.0	2.4	0.0	97.6	2.4		
ルールや自律の大切さに気づかせ、考えをもたせている。	教職員	27.6	65.5	6.9	0.0	93.1	6.9		



「規範意識の醸成」についてです。ルールを守り、安定した生活を送ることが、「共に生きる力」の基盤となります。児童と保護者、教職員共に良好の割合90%前後と高く、児童の要改善の割合も前年度に比べて1.6ポイント下がっています。卒業、入学、進級にともなうクラス替えもあり落ち着かない時期ですが、生活の中で児童の意識が高まっていることが増えていることがわかります。今後とも家庭と学校で協力し児童の成長を支えていきたいと思えます。

## 確かな学力（基礎基本）

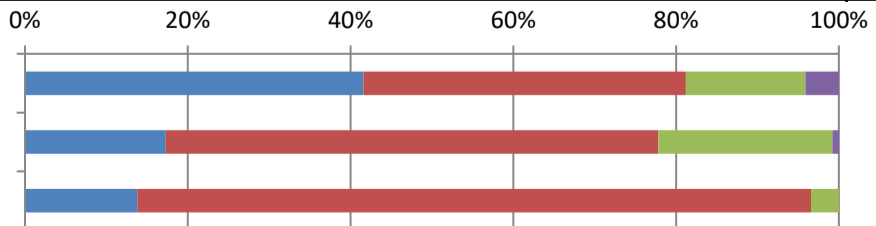
項目	児童	保護者	教職員	④思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①思わない				良好	要改善
				④	③	②	①		
5 学習したことが身についている。	児童	44.6	44.6	8.4	2.4	89.2	10.8		
学習したことを話題にし、頑張りや認められている。	保護者	40.7	49.6	9.7	0.0	90.3	9.7		
基礎的事項の定着を図り、子どもの考えを生かした授業を行っている。	教職員	17.2	82.8	0.0	0.0	100.0	0.0		



「学習したことが身についているか」についてです。昨年度に比べて「良好」のポイントが高くなっており、児童の良好は1.4ポイント上がりました。「もっと勉強ができるようになってほしい」というのは、お家の方の変わらぬ思いだと思います。本校では、わかりやすい授業となるよう研修等で授業改善を進めております。学習内容の定着には、宿題や自学の取組も大事になってきます。引き続き各ご家庭のお力添えをお願いします。

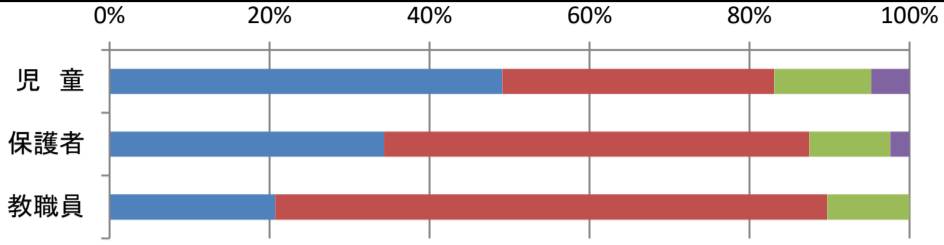
## 確かな学力（読解力・記述力）

項目	児童	保護者	教職員	④思う ③だいたいそう思う ②あまりそう思わない ①思わない				良好	要改善
				④	③	②	①		
6 文章を正しく読み、自分の考えをまとめて書くことができている。	児童	41.6	39.6	14.7	4.1	81.2	18.8		
文章力が付くよう対話を広げ、気付きや感情を受け止めている。	保護者	17.3	60.5	21.4	0.8	77.8	22.2		
読む力・書く力が高まるよう、問い返しや違う言葉で説明する機会をつくっている。	教職員	13.8	82.8	3.4	0.0	96.6	3.4		



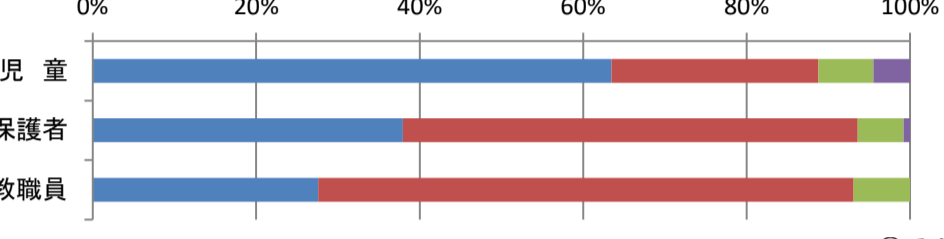
「読解力・記述力」についてです。読解力の向上については、長い間取り組んできましたが、一定の成果が見られたため、昨年度から、記述力の育成にも取組を広げました。「要改善」の割合が多くなっており、一朝一夕に成果が出るものではないため、粘り強く取組を継続していく必要があります。本校独自の取組である「読解力調査」も改善を図りました。読解力の向上には、読書も大きな関わりがあるとされています。お家でも、読書の時間などを設けて、家族で読書を楽しむのも良いのではないのでしょうか。

確かな学力（学習習慣）		④	③	②	①	良好	要改善	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(4)+(3)	(2)+(1)	
7	家庭学習の習慣が身についている。	児童	49.1	34.0	12.1	4.8	83.1	16.9
	家庭学習の様子を見て、取組にアドバイスしたり、励ましたりしている。	保護者	34.3	53.2	10.1	2.4	87.5	12.5
	家庭学習の目的や内容について助言したり、必要に応じて課題を出している。	教職員	20.7	69.0	10.3	0.0	89.7	10.3



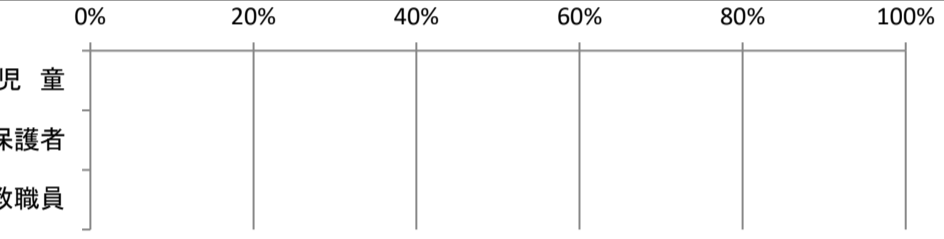
「お家での学習習慣の定着」についてです。本項目は、確かな学力に関わり2年前から調査することになりました。要改善の割合が高いです。ただ、昨年度に比べると、児童の「要改善」が3.3ポイント減少し、「良好」が上昇しているため改善傾向にあるといえます。家庭学習については、やり方の指導は学校でも行いますが、実際に学習するのは各ご家庭です。保護者の方の声かけ、チェック、時にはアドバイスが必要となります。ご協力をお願いいたします。

安定的な学校運営		④	③	②	①	良好	要改善	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(4)+(3)	(2)+(1)	
8	学校が楽しい。	児童	63.4	25.3	6.7	4.5	88.7	11.2
	楽しく学べるように、お子さんの学びを支えている。	保護者	37.9	55.6	5.6	0.8	93.5	6.4
	活躍の場を広げ、学びがいや自分があることの大切さを感じられるよう	教職員	27.6	65.5	6.9	0.0	93.1	6.9



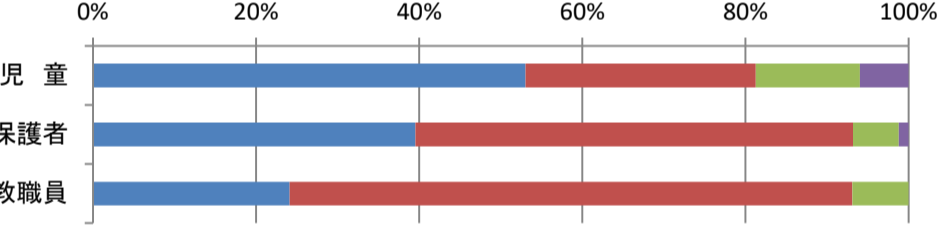
「学校に楽しく通えているか」です。毎年、ほぼ同様の傾向が見られるのですが、保護者・教職員では「良好」が多くなっています。一方で、児童の11.2%が要改善を選択しています。その中で「思わない」を選んだ子が4.5%と、学級平均で1名ほどいます。様々な要因が考えられます。その子が少しでも学校に楽しく通えるように、教職員一同で対応していきます。ご家庭でも、お子さんの気になる様子がありましたら、学校にお伝えください。共にできることを考えていきます。

性への知識・理解		④	③	②	①	良好	要改善	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(4)+(3)	(2)+(1)	
9	「きらり★いのち」の授業がよくわかる。	児童					0.0	0.0
	お子さんは、「きらり★いのち」の授業などを通して、性や命に関する理解を深めている。	保護者					0.0	0.0
	児童は、「きらり★いのち」の授業などを通して、性や命に関する理解を深めている。	教職員					0.0	0.0



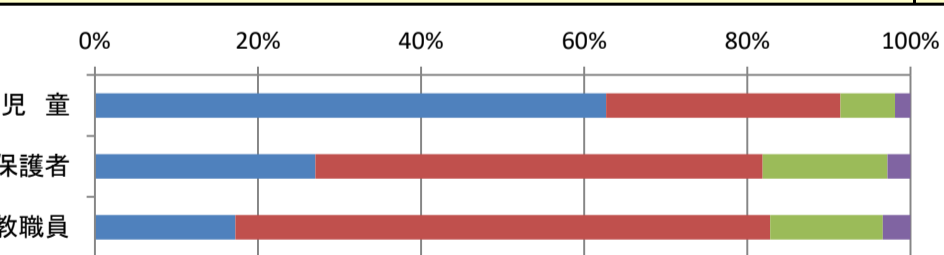
本項目は、後期のみの評価となります。

食育		④	③	②	①	良好	要改善	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(4)+(3)	(2)+(1)	
10	給食が楽しみで、食育の授業がよくわかる。	児童	54.1	28.8	13.0	6.1	82.9	19.1
	家庭での食事や睡眠など、生活リズムと栄養について気を付けている。	保護者	39.5	53.6	5.6	1.2	93.1	6.8
	食や生活リズムへの関心を高める話や授業を行い、食や健康の意識化を図って	教職員	24.1	69.0	6.9	0.0	93.1	6.9



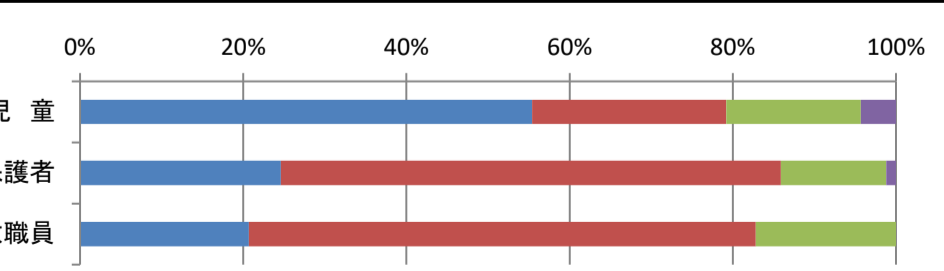
「食育」についてです。本校の給食は、給食委員会による食材の紹介や、栄養バランスを重視した献立など、子どもたちが元気に過ごせるような工夫を行っています。栄養教諭が各学級に出向いての食育の授業も随時実施されており、各学年の発達段階に合わせて、バランスの良い食事についてや、体に良い食べ方についての学習が行われます。今後も、子どもたちの健康に関わる食育の充実に努めていきます。

情報活用能力		④	③	②	①	良好	要改善	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(4)+(3)	(2)+(1)	
11	クロームブックを使い、タイピングをしたり、情報を集めてまとめたり、プログラミングをしたり、正しい使い方を身につけたりしている。	児童	62.8	28.8	6.7	1.9	91.6	8.6
	家庭でのクロームブックの使用に寄り添い、学習や情報収集などの様子を見るなど、お子さんの学びを支えている。	保護者	27.0	54.8	15.3	2.8	81.8	18.1
	子どもの個々の状況に応じてクロームブックの活用を進め、授業での効果的な活用を目指した取組を進めている。	教職員	17.2	65.5	13.8	3.4	82.7	17.2



「情報活用能力」についてです。児童については横ばいですが、今年度は良好が90%を越えました。また、保護者の「良好」が昨年度の69%から12ポイント、教職員では68%から14ポイント上がりました。本校ではクロームブック導入時から、とにかく使ってみようということに主眼を置き子どもたちが使い慣れる環境を構築してきました。また現在では、学習の目標を達成するためのツールの一つであるという認識が進み、どの学習においても、あらゆる場面で活用しています。今後もクロームブックの使い方については、何のためにどのように使うかということ子どもたちと話し、より効果的に活用できるよう努めていきます。

地域学習		④	③	②	①	良好	要改善	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(4)+(3)	(2)+(1)	
12	七飯町と他の地域とのつながりを調べたい。	児童	55.4	23.8	16.5	4.3	79.2	20.8
	お子さんの興味や関心に応じて、話題を広げたり、気付きを促したりしている。	保護者	24.6	61.3	12.9	1.2	85.9	14.1
	調べ学習や発表物作成などに発想豊かに工夫できるよう指導支援している。	教職員	20.7	62.1	17.2	0.0	82.8	17.2



本校は、主に社会科や生活科、総合的な学習の時間で探究的な学習に繋がる学びを行っています。今後、更に目的意識やねらいを明確にしながら地域学習を推進していくため、各学年のどの学習が地域学習と関連しているのか再度確認し体験的な地域学習に発展できそうか検討を進めます。子どもたちの調べたいという思いをかなえられるように、教職員一同で検討を重ねていきます。